

## 創刊の辞

昨年六月二十四日、仏教文化研究所の開所式に当たり、「設立趣意書並びに概要」において公表したように、本研究所はその事業として、定期的な研究会、部内又は公開の講演会、仏教及び仏教文化に関する公開講座などの開催と並んで、研究成果公表のための「紀要」の刊行と、研究資料の収集等を行うことをうたっている。

なかでも「紀要」は、本研究所の日常の研究活動を世間に知っていただくための場として、もっとも重要な役割をもっている。その意味で、わたくしは所長として、この「紀要」の本年度末における刊行を、最重要な課題と考えて、準備をすすめて来た。幸い所員の協力のもとに、ここにその創刊号ができたことは無上の喜びである。

われわれの研究所は目下のところ、固有の研究室も事務室もない。あるのは所員と最低限の事務機構であり、そして所員の研究組織である。研究資料については、本学には従来特定の仏教研究の機関も組織もなかったので、図書館における蔵書は、数はあっても秩序立っていない。幸いに研究所の研究費が本年度より予算措置をしてもらえたので、これから年月をかけて、すぐれたコレクションに育てていかなければならない。

そうした中で、納富主任をはじめ、本学の関係する分野の諸教員を併任として研究所の所員に迎え、

早速に研究活動を開始できたのは、まことに恵まれたことと思つて感謝している。本創刊号は、そうした所員先生たちの、いわば顔合わせの場として、日頃の研究に沿った論文を掲載していただいた。

さらに巻頭に、開所式に講演をいただいた中村元博士の玉稿を掲載できたことは、わが「紀要」に花を添えるものとして、光栄の至りである。ここに博士の御好意に対し、厚く感謝申し上げる次第である。

平成八年三月

所長 高崎直道